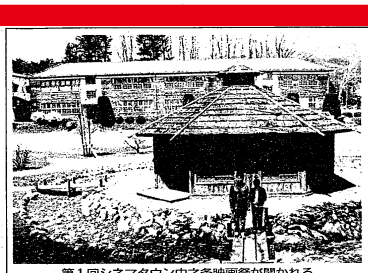


第1回シネマタウン中之条映画祭が開かれる伊参スタジオ

「眠る男」「月とキャベツ」

伊参スタジオで映画祭

今秋中之条で2日間

監督、女優と対談

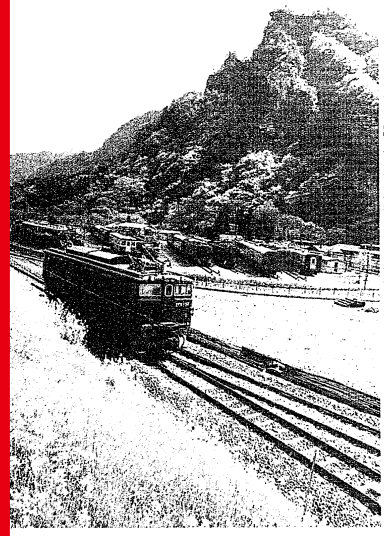
映画「眠る男」や「月とキャベツ」などの撮影拠点となった中之条町の伊参スタジオで今秋、第1回シネマタウン中之条映画祭が開かれる。町と中之条ふるさと塾（佐鳥利行塾頭、10人）が主催し、主会場は伊参スタジオ内の体育館となる予定。町内で撮影された映画が2日間にわたって上映され、「月とキャベツ」の監督、篠原哲雄さんと女優、真田麻垂美さんの対談なども予定されている。

映画祭で上映が予定されているのは「眠る男」「月とキャベツ」「独立の年合唱団」など。「眠る男」は県人口二百万人突破記念として一九九五年に制作され、往目された。「月とキャベツ」は、九六年にやはり伊参スタジオを中心に撮影された。

「月とキャベツ」の封切り後、北海道から九州まで全国各地から熱心な映画ファンが訪れ始めた。主に若者たちが、町内や隣接村なども主なロケ地を訪問している。

また、これらの映画によって、中之条町は美しい風景や街並みが脚光を浴びるようになり、以後多くの映画やテレビドラマのロケ地として使われている。「眠る男」の撮影終了後、主な舞台となった旧第四中学校の木造校舎が「伊参スタジオ」として保存され、見学者が全国から毎年一万人以上訪れている。

町企画課は「伊参スタジオを開発してこれ目、その間熱心なファンの方々が全国から訪れてくれ、その人たちのためにもぜひ映画祭を成功させたい。そして、参集してくれた人たちに素晴らしい映画の数々と美しい町の風景を満喫してもらう」と張り切っている。



碓氷峠鉄道文化むらで300ばのレールを上をゆっくり走行する電気機関車「EF63」（手前）。講習を受けた元一般の人場者が運転する

鉄路のなごり　信越線を走る

碓氷峠鉄道文化むら

20年後に花見を　地元住民が植樹

「廃線になってから又会うまでの20年間、町は人の入れ替えが激しかった。文化むらができて、またにぎやかだ」

少年時代を横川駅周辺の国鉄官舎で過ごした石川さんは、この春、横川駅から碓氷峠までつづく横川鉄道の歴史を調べ上げる鉄道文化むらの「二十年後に花見をしようって言ってるんですよ。いつも人の植えた桜を見てる。自分たちで植えた桜の花見ができたら、すごいじゃないですか」。中心メンバー、加藤正夫さん（三）の声が弾む。

車むしりをしたり、薬の花を植えて飲んでみたり、ヒマワリを咲かせたり…。なぜか鉄道で野良仕事をしてる（加藤さん）メンバーの姿も。

もはや列車の行き交わない信越線周辺に、余情を添える花々。電気機関車「EF63」など三十九両が並び、同線の歴史を語りつける鉄道文化むらで、かつての役どころを見続けて育つ桜は、数十年後、どんな姿になっているだろう。

桜は植樹したころより伸びて、人の背丈ほどになっている。緑の葉が出ていると聞いて、じゃあ木陰ができるなあ。

松井田町横川の碓氷峠鉄道文化むらに住む竹馬秀雄さんをは、そう思ったという。先月二十日、文化むらが開園二周年記念で無料開放され、友人と訪れた時だった。桜は、文化むらが開園した九九九年の秋に、竹馬さんが寄贈した十本だ。

「炎天下で気分が悪くなる人が増えるだろうと思いまして」

信越線上り列車の電力化むらが開園するまでの一年半、町は人の入れ替えが激しかった。文化むらができて、またにぎやかだ。

②十一日、文化むらが開園二周年記念で無料開放され、友人と訪れた時だった。桜は、文化むらが開園した九九九年の秋に、竹馬さんが寄贈した十本だ。

「炎天下で気分が悪くなる人が増えるだろうと思いまして」

信越線上り列車の電力化むらが開園するまでの一年半、町は人の入れ替えが激しかった。文化むらができて、またにぎやかだ。

「廃線になってから又会うまでの20年間、町は人の入れ替えが激しかった。文化むらができて、またにぎやかだ」

少年時代を横川駅周辺の国鉄官舎で過ごした石川さんは、この春、横川駅から碓氷峠までつづく横川鉄道の歴史を調べ上げる鉄道文化むらの「二十年後に花見をしようって言ってるんですよ。いつも人の植えた桜を見てる。自分たちで植えた桜の花見ができたら、すごいじゃないですか」。中心メンバー、加藤正夫さん（三）の声が弾む。

車むしりをしたり、薬の花を植えて飲んでみたり、ヒマワリを咲かせたり…。なぜか鉄道で野良仕事をしてる（加藤さん）メンバーの姿も。

もはや列車の行き交わない信越線周辺に、余情を添える花々。電気機関車「EF63」など三十九両が並び、同線の歴史を語りつける鉄道文化むらで、かつての役どころを見続けて育つ桜は、数十年後、どんな姿になっているだろう。

毒ヘビ「タイアマガサ」にかまれた男性

数塚↓東京　血清リレー

県警など　100キロ、一命とりとめる

東京都杉並区の住宅で毒ヘビ「タイアマガサ」にかまれた男性の命を助けようと群馬、埼玉両県警と警視庁が二十九日夜、数塚から東京都三鷹市の病院までの約百キロをパトカーでリレー、血清を輸送した。男性は一命をとりとめた。同研究所によると、タイアマガサによる咬（こう）傷性の症状は全国でも珍しいという。

同研究所によると、男性は二十九日午前六時半ごろ、知人宅で飼育されていたヘビに右手をかまれ、石川さんは妻の純代さん（三七）、長男の彪雅（ひゅうが）ちゃん（二つ）の三人で初呼吸困難に陥ったため、同病院は同研究所に血清を入手、R大官駅近くに住んでいるため、大の電車好きという石川さんは「子どもを一度連れてきたい」と思っていた。

このタイアマガサは、男性の知人が毒性のない「オオカミヘビ」と思い込んで「子どもを一度連れてきたい」と思っていた。

タイアマガサは東南アジアに生息するコブラ科の猛毒のヘビ。体長は五十～一八〇。神経毒が強く、かまれると呼吸困難に陥り、死亡率は数十％と高い。同研究所は「タイアマガサの血清が必要とされたのは研究所では初めて。全国でも珍しいケースではないか」と話している。

園者が万人達成

碓氷峠鉄道文化むら

松井田町横川の碓氷峠鉄道文化むらの入園者が二十万人に達し、五十の石川誠さん（三）＝東京都大町長から証明書を受け取る石川一家

て一九九年四月にオープン、九九年度に約三十万人、二〇〇〇年度に約十八万人が訪れ文化むらを訪れた。彪雅ちゃんは「J R官駅近くに住んでいるため、大の電車好きという。石川さんは「子どもを一度連れてきたい」と思っていた。

このタイアマガサは、男性の知人が毒性のない「オオカミヘビ」と思い込んで「子どもを一度連れてきたい」と思っていた。

タイアマガサは東南アジアに生息するコブラ科の猛毒のヘビ。体長は五十～一八〇。神経毒が強く、かまれると呼吸困難に陥り、死亡率は数十％と高い。同研究所は「タイアマガサの血清が必要とされたのは研究所では初めて。全国でも珍しいケースではないか」と話している。

講演会などで市民フェス拡充へ

館林市教委

館林市教委は、生涯学習振興の一環として開いている「ふるさとづくり市民フェスティバル」の内容を見直し、拡充する。講演会等で昨年から始めた市民塾に関する講演会は、聖徳大人文学部の福留強教授を招き、生涯学習の成果を発表する場としても開く。フェスティバルは十回目となり、今年は六月一日から三日間、三の丸芸術ホール、市文化会館、市役所東広場、向井千秋記念子ども科学館などで市役所周辺一帯で開かれる。市生涯学習推進本部とフェスティバル実行委員会が主催する。

市民塾のワークショップは陶芸、フラワーアレンジメント、ストレッチ体操などで、記念講演会は、聖徳大人文学部の福留強教授を招き、生涯学習の成果を発表する場としても開く。フェスティバルは十回目となり、今年は六月一日から三日間、三の丸芸術ホール、市文化会館、市役所東広場、向井千秋記念子ども科学館などで市役所周辺一帯で開かれる。市生涯学習推進本部とフェスティバル実行委員会が主催する。

市民塾のワークショップは陶芸、フラワーアレンジメント、ストレッチ体操などで、記念講演会は、聖徳大人文学部の福留強教授を招き、生涯学習の成果を発表する場としても開く。併せて記念講演会も